

## 狩野文庫蔵和書新書 - その目録作成の意義 -

著者	高木 忠
雑誌名	東北大学附属図書館研究年報
号	30
ページ	72(1)-67(6)
発行年	1997-12-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00133258">http://hdl.handle.net/10097/00133258</a>

# 狩野文庫和書新書

—— その目録作成の意義 ——

高 木 忠

狩野文庫は、東北帝国大学初代総長沢柳政太郎の尽力と仙台の篤志家荒井泰治の寄付金とによって納入された狩野亨吉の旧蔵書である。大正元年納入の 24,938 点 81,016 冊<sup>(註1)</sup>を第 1 期第 1 次とし、大正 12 年大同洋行を通じて購入された第 2 次と、昭和 4 年亨吉からの寄付の第 3 次、さらに昭和 17 年の逝去に伴い友人岩波茂雄の尽力で購入された遺贈書の第 2 期をあわせた約 8,000 点、2 万余冊を加えた和書 32,655 点と、若干の洋書とから成る約 10 万 8,000 冊のコレクションである。個人の蔵書としては、数は勿論その蔵書構成からみても超一流の集書であることは既に多く知られているところである。

およそ 35,000 点といわれるその概要は次頁に示した通りである。

「国書総目録」(岩波書店 昭和 38-51 年)と「東北大学所蔵和漢書古典分類目録」(昭和 49-58 年)(以下「古典目録」という。)との刊行は、東北大学における狩野文庫の存在とその資料的価値を全国に広めることとなった。

平成 2 年からおよそ 3 年にわたって実施された狩野文庫和書古典のマイクロ化と、それに平行して編纂された「狩野文庫目録和書之部」(総索引とも全 11 冊 平成 5 年)(以下「狩野文庫目録」という。)の刊行は、狩野本のマイクロフィルムによる利用を可能にした。この目録には、「原則として

# 狩野文庫和書新書

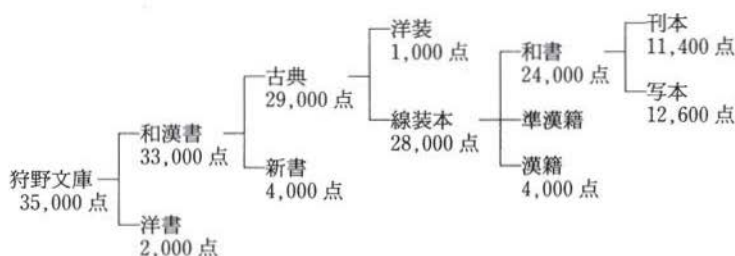


図1 狩野文庫の資料構成<sup>(註2)</sup>

慶応4年までに成立した日本人の著編撰訳になる」(同凡例)著作物、いわゆる和書古典のうち線装本約24,000点が収録されている。この数は、「古典目録」の収録点数の30パーセントにあたる狩野文庫約35,000点の68.6パーセントに相当する。この目録によって狩野文庫和書古典の全体像がより一層鮮明になり、資料利用の利便性が向上すると共に、狩野亨吉研究に大いに資することも期待される。

狩野文庫には、この大部を占める和書古典のほか、かなりの数の漢籍がある。漢籍だけを収録した目録はまだ作成されてないが、「古典目録」の漢籍の部に含まれてすでに紹介されている。そのため狩野文庫でまだ目録が作成されていないのは、和書新書のみである。なお狩野文庫には若干の洋書もあるが<sup>(註3)</sup>ここではふれない。

本稿は、狩野文庫にあって未だ目録が編成されていない和書新書を取り上げ、その目録の意義を考えるものである。

ここでいう和書新書とは、

1. 明治以降の刊行物で
2. 狩野文庫の目録(カード体)に含まれており
3. 「古典目録」に収録されていないもの をさす。

狩野文庫中の和書新書の概数は、図1に示したが、その確認を目的として、狩野文庫のカード目録から和書をかぞえながら「狩野文庫目録」に収録された古典を抜き出す作業をこころみた。その結果、「狩野文庫目録」に収録された和書古典がおおよそ22,700点であった。それに対し、新書は、概数ながら、図1に示した数よりかなり多いことがわかった。これらの結果を第1期と第2期とに分け、部門別に示したのが表1である（漢籍は今回調査対象としなかったが図1の数値に近い値を示した。）。

東北大学は、明治40年仙台の理科大学と、札幌の農科大学とで構成されたわが国3番目の帝国大学として創立された。狩野文庫納入の大正元年は、設立からわずか5年を経たに過ぎない大学の黎明期であった。蔵書は狩野文庫納入によって、質量ともに飛躍的に増大したが、特にその利用が待たれた法文学部の設置までにはなお10年の歳月を要した。また新学部設置に伴い欧州に派遣されていた赴任予定の教官諸氏によってもたらされた法学書のゼッケル、シュタイン、チーテルマンの各文庫や心理学のヴント文庫は、蔵書構成を更に一層特色ある充実したものとした。

このような中にある狩野文庫についても、すでに紹介されているのでここでは繰り返さない。しかし、明治期以降の新書となると、これまでに紹介された例を知らない。大正初期の本学にあつては、和書新書は狩野文庫本を除けば、理科大学が収集した数少ない理系の図書が中心であつた<sup>(註4)</sup>。現在においても、狩野文庫本を除けば所蔵の明治期以降刊行図書は、戦後包摂された旧制第二高等学校など数校の旧蔵書を加えるにすぎない。それだけに、狩野文庫中の和書新書の存在は大きい。

狩野文庫の古典資料は、「江戸学の宝庫」とも称され、その価値は高く評価されている。これは単にその数の多さだけではなく、書誌学者・哲学者狩野亨吉の目で確認され収集された図書があらゆる分野にわたり、実にバランスよく厳選された資料群として構成されている点からである。そのこ

表1 部門別点数

	第1期	第2期	合計	古典	漢籍	新書
	点数(冊数)	点数	点数	点数	点数	点数
第1門	921 ( 8,698)	480	1,401	948	153	300
第2門	3,728 (11,240)	1,018	4,746	3,034	1,012	700
第3門	4,812 (17,510)	1,587	6,399	3,916	683	1,800
第4門	6,160 (20,860)	1,233	7,393	5,529	864	1,000
第5門	2,150 ( 4,463)	1,323	3,473	2,152	421	900
第6門	2,041 ( 5,096)	905	2,946	2,199	147	600
第7門	1,410 ( 3,397)	517	1,927	1,670	57	200
第8門	455 ( 1,502)	225	680	421	99	160
第9門	1,198 ( 3,764)	241	1,439	981	258	200
第10門	1,849 ( 4,162)	187	2,036	1,862	74	100
合計	24,724 (80,692)	7,716	32,400	22,712	3,768 <sup>(注5)</sup>	5,960

(注) 第1期の数値は注1の矢島文献による。第2期(含追加)はカード目録による。古典は「古典目録」による。新書は概数。漢籍は合計から古典と新書を差し引いた数。

とは和書新書にもあてはまり、数こそ少ないが、また明治期の文学作品がほとんど収集されていない事情はあるが<sup>(注6)</sup>、大正期、昭和前期の図書も含め、明治期刊行資料が旧蔵者の洗練された鑑定眼によって収集されたコレクションとして、古典資料同様特色ある蔵書構成を示している。

その主な特徴を示せばおおそ以下の通りである。

第1門で目に付くのは、書誌書目、解題書、各種機関の蔵書目録類の多さである。旧蔵者が文庫の蔵書構成をさらに洗練あるものにするため、常に手元に置いて参考にしたことをうかがい知る資料群である。第2門の哲学・宗教・教育分野では、全国各地の神社誌、各宗派の仏教書、仏教関係書が、第3門歴史には、中国・朝鮮を含む名所旧跡の観光案内や地図が多い。第4門の語学・文学には、明治期の特色のひとつでもある外国語の教科書、指導書の類が、第6門の法律・政治・経済では、諸外国諸制度や文



物、習慣を紹介した図書や、新政府の施策を解説した図書、それに「勸業」「勸農」「博覧会」など殖産振興策の解説書、商工農業各方面での指導書、啓蒙書類が目につく。第7門の数学では、代数学や幾何学などの近代西洋数学書が、第9門医学では、漢方、蘭方に代わり、西洋の医学書が、そして第10門の工学にあつては、近代科学技術関係の図書が見受けられる。

このように、全体を通して明治・大正期出版の図書を中心に収集された新書は、古典同様あらゆる主題にほとんど漏れなく集められており、新書の大きな特色でもある。

狩野文庫の和書新書は、つぎの点でその価値を認めることができる。

1. 本学の蔵書構成上、欠くことのできない貴重な存在であること
2. 先年目録の刊行を終えた和書古典とあわせて利用されるべき資料群であること
3. 旧蔵者の書誌知識の集大成としての蔵書構成をもっていること
4. 明治期の出版物が多く含まれていること
5. 明治期刊行物に対する利用者の需要が高まりつつあること

このような狩野文庫の和書新書が、これまで利用者に広く知られ利用されてきたとは言えない。これは文庫の目録が、図書原簿を兼ねたカード体の分類目録1セットしか存在しないため、閲覧用として解放されていないことが理由である。近年、国立国会図書館が「蔵書目録 明治期」(全8冊 平成6-7年)を完成し、資料のマイクロ化を実現した。また早稲田大学図書館は、その蔵書を中心とした「明治期刊行物集成 文学・言語総目録」(上下2冊 平成8年)の刊行と資料のマイクロ化を成し遂げた。この二つの事業によって、明治期刊行図書の概要が次第に明らかになり、その利用がきわめて容易になった。

狩野文庫の和書古典のマイクロ化が一段落したいま、和書新書の目録を

考えることも意味があろう。

- (注1) 矢島玄亮：狩野文庫について —— 在館 33 年の思い出『MAUL』27 (1966)  
p. 6
- (注2) 石田義光ほか：「狩野文庫目録和書之部」成立の経緯『東北大学附属図書館  
研究年報』28 (1995) p. 212
- (注3) 原田隆吉：「狩野文庫」蔵書構成の研究 (2)『図書館学研究報告』16 (1983)  
p. 154 によると 1554 冊
- (注4) 拙稿：本館における「利用案内」の変遷『東北大学附属図書館研究年報』  
26 (1993) p. 130
- (注5) 原田隆吉：「狩野文庫」蔵書構成の研究 (1)『図書館学研究報告』14 (1981)  
p. 128 の集計表では 3407+73 冊
- (注6) 原田隆吉：「全集」と狩野文庫『東北学院大学論集 歴史学地理学』  
29 (1995) p. 27